

学校規模適正化・適正配置に係る児童生徒アンケート結果について

実施期間：2026 年 1 月 8 日(水)～30 日(金)

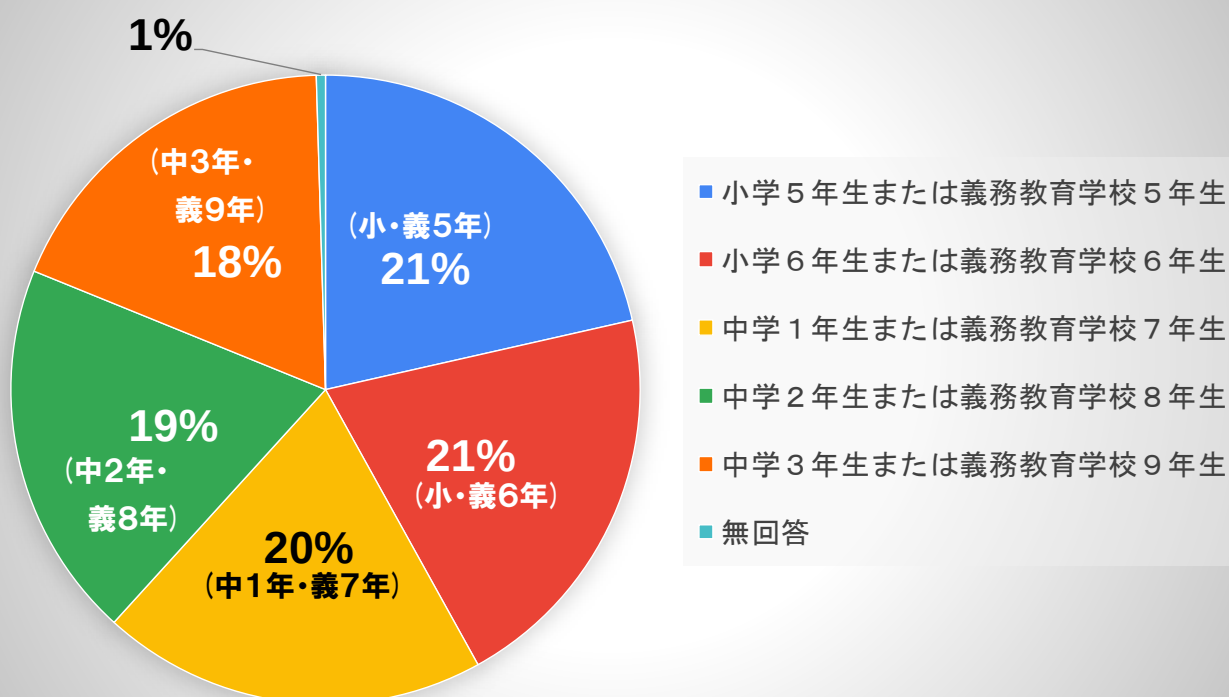
対 象：小学校・義務教育学校 5 年生～中学 3 年生・義務教育学校 9 年生

回 答 数：3421 件

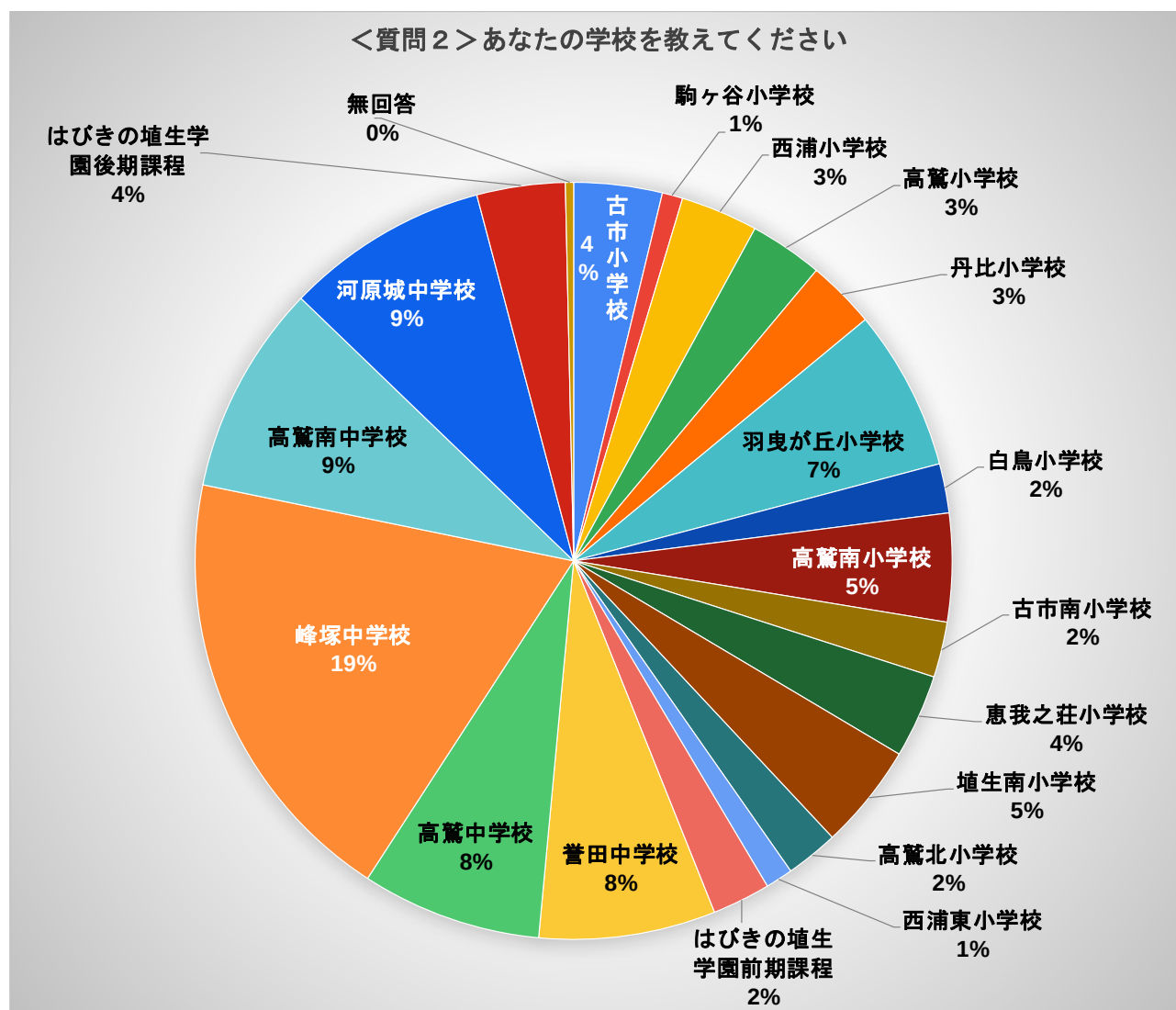
実施場所：在籍校教室

質問 1 あなたの学年を教えてください。

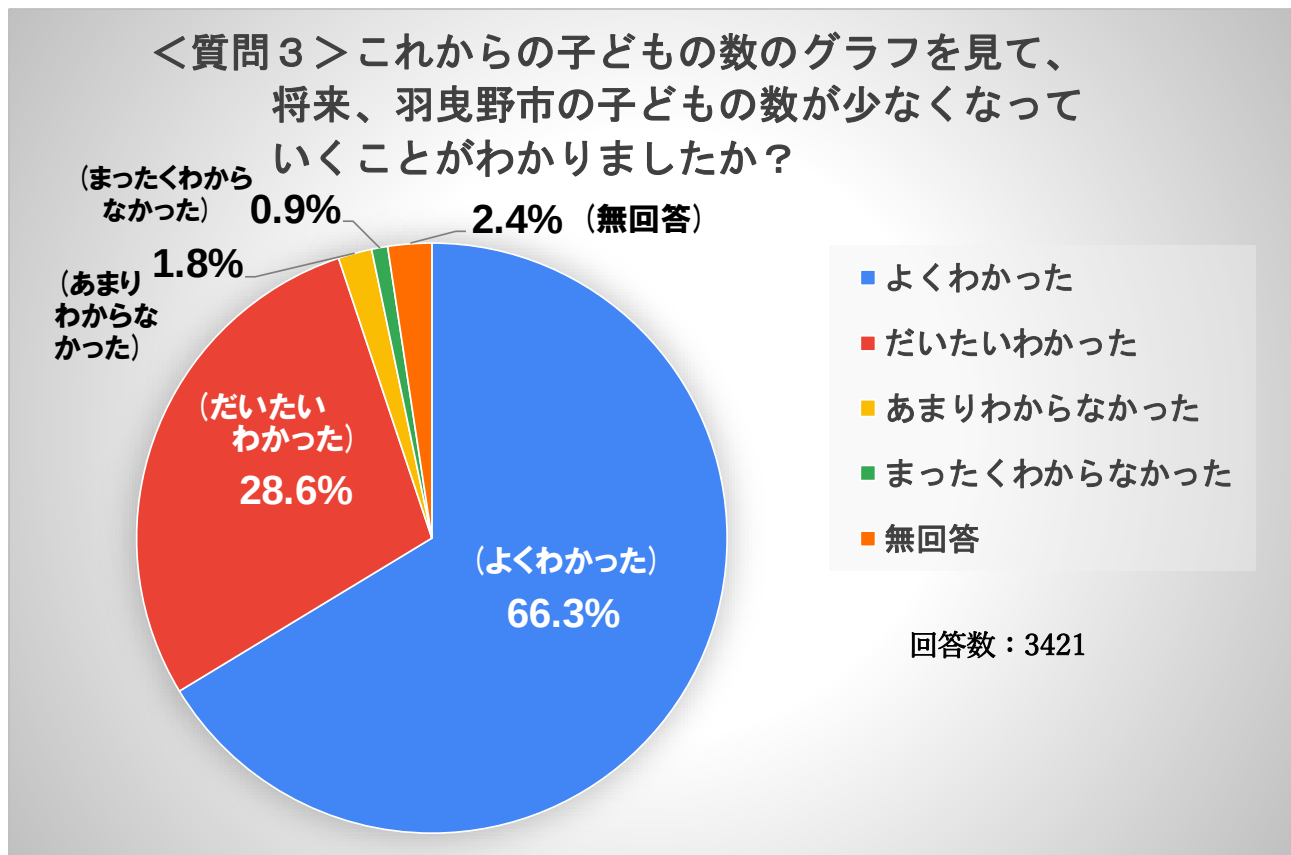
＜質問 1＞あなたの学年を教えてください



質問 2 あなたの学校を教えてください。

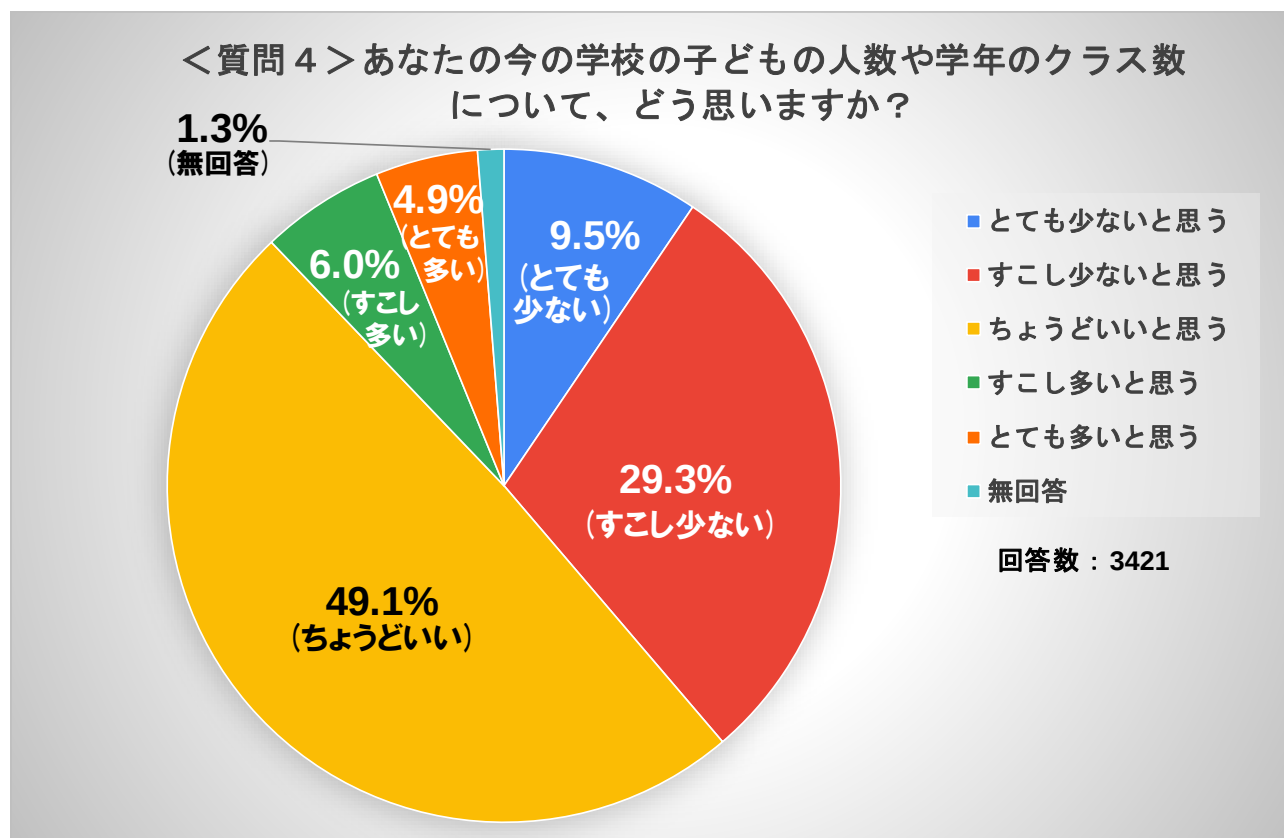


質問3 これからの子どもの数のグラフを見て、将来、羽曳野市の子ども数が少なくなっていくことがわかりましたか？



○説明動画等も見て、羽曳野市の学校の現状を理解してくれたと感じています。

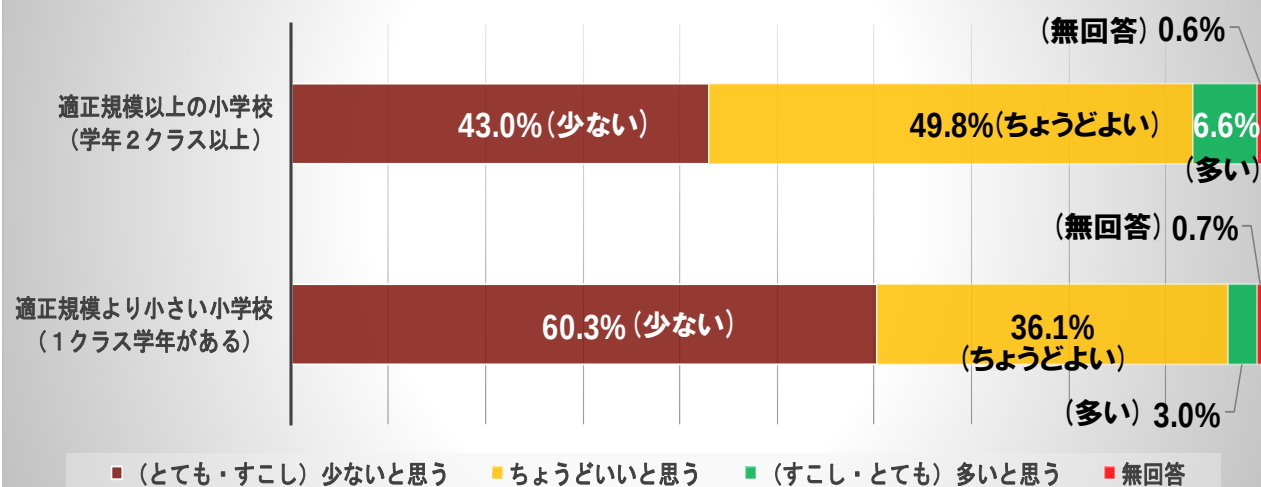
質問 4 あなたの今の学校の子どもの人数や学年のクラス数について、どう
思いますか？



○「ちょうどいい」が最も多く、次に「すこし少ない」、次に「とても少ない」の順でした。

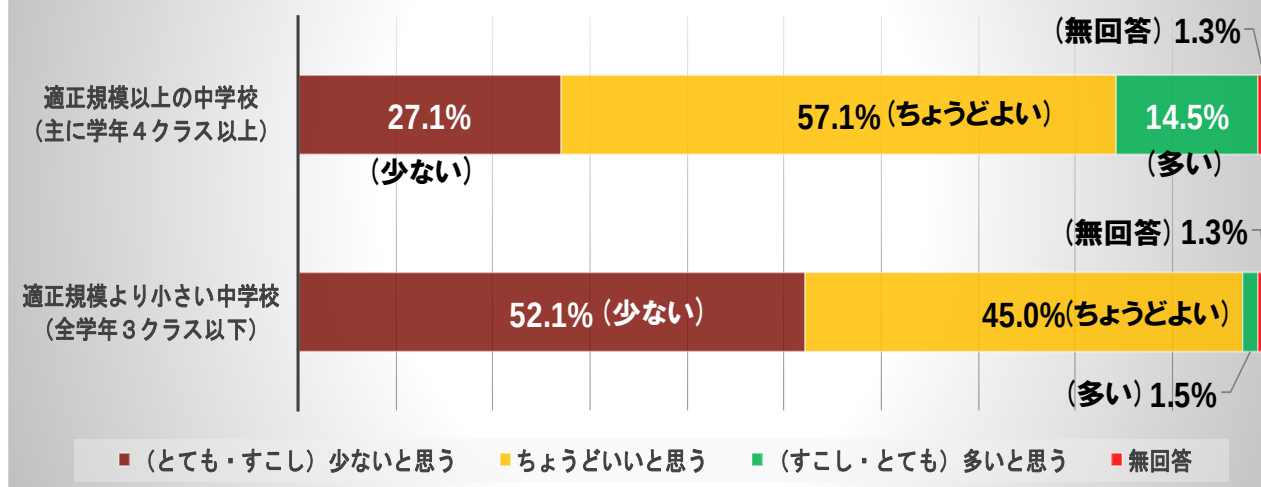
○ただ、学校による傾向の違いがあり、現在、適正規模よりも小さな学校と適正規模以上の学校に分けて、各項目の回答率をみると、下の横棒グラフのようになります。

＜質問 4＞ あなたの今の学校の子どもの人数や学年のクラス数について、どう思いますか？（小学校）



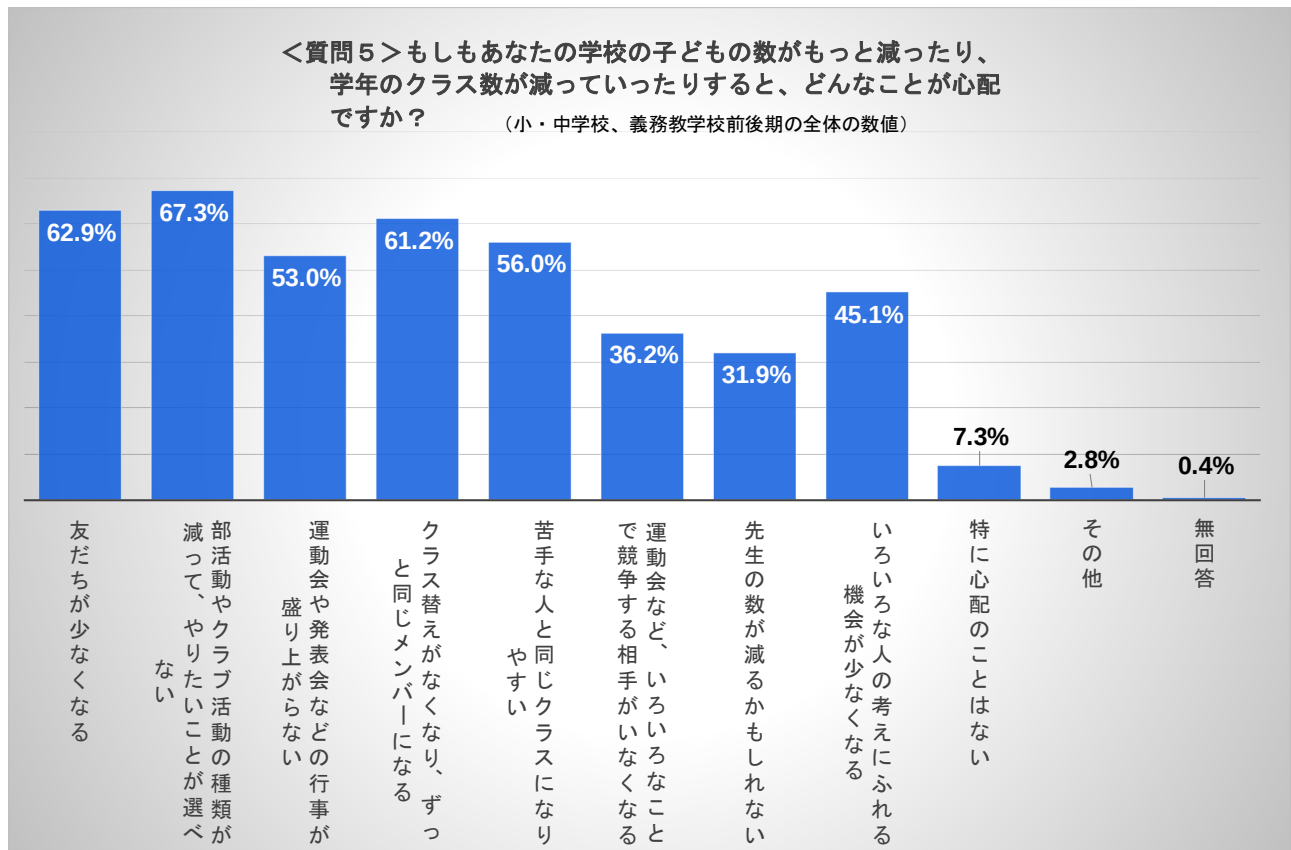
- 適正規模よりも小さい小学校とは、1クラスの学年を有する小学校で、適正規模以上の小学校とは、すべての学年で2クラス以上の小学校・義務教育学校です。
- 1クラスの学年がある学校、2クラスあっても1クラスの人数が20名程度と少ない小学校では、「とても少ない」「すこし少ない」と感じている児童が多い傾向にあります。
- 一方、学年3～4クラスある小学校では、「すこし多い」「とても多い」と感じている児童が、適正規模より小さい小学校よりも多くなっています。
- 特徴的なのは、適正規模よりも小さい小学校の中でも、長年すべての学年1クラスで過ごしてきている小学校で、「ちょうどよい」という回答が非常に高いことです。これは少人数の環境のメリットを最大限に生かした教育活動の成果である一方、少人数の心地よさに慣れてしまい、進学などで大きな集団に入るときに不安感が生じるのではないかという心配もあります。
- 適正規模より小さい小学校でも、約3%の子どもが「少し多いと思う」と回答しています。これはクラス数の多い少ないではなく、1クラスの人数が多い学校に見られる傾向です。

＜質問４＞あなたの今の学校の子どもの人数や学年のクラス数について、どう思いますか？（中学校）



- 適正規模より小さい中学校とは、すべての学年が３クラス以下の中学校・義務教育学校で、適正規模以上の中学校とは、主に学年が４クラス以上の中学校です。
- 小学校と同じ傾向が見られ、適正規模よりも小さい中学校・義務教育学校では、「(とても・すこし) 少ない」と感じている生徒が多い傾向にあります。
- 一方、適正規模以上の中学校で、「(すこし・とても) 多いと思う」が、14.5%あるのは、６クラス以上ある中学校が含まれており、「多い」と感じている生徒の割合が大きくなっています。

質問5 もしもあなたの学校の子どもの数がもっと減ったり、学年のクラス数が減っていったりすると、どんなことが心配ですか？



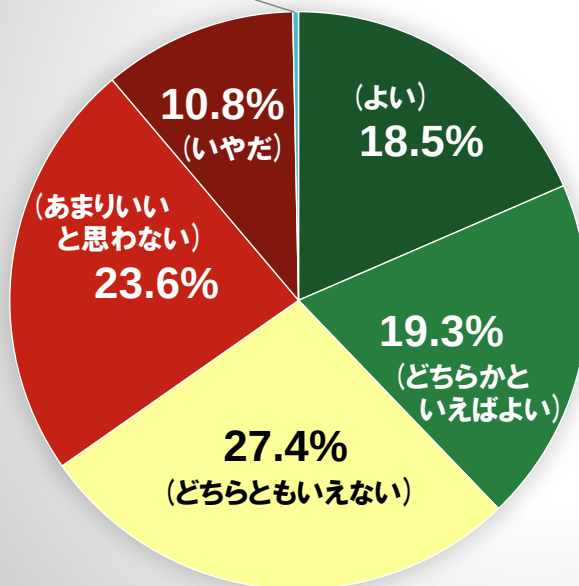
- 「部活動」や「行事」が盛り上がらないなどの少人数での寂しさや、「クラス替えができなくなること」「苦手な人と同じクラスになりやすい」「友だちが少なくなる」「いろいろな考えに触れる機会が少なくなる」など、人間関係の固定化に対する心配事が多かったようです。
- 「先生の数が少なくなる」についても、小中を問わず、一定数の回答があります。特に中学校・義務教育学校後期課程においては、先生の数が減ることが教科指導や部活動の充実に直接関わることだという認識があると思います。

質問 6 学校の子どもの数が減っていく対策として、「近くのいくつかの学校がまとまって、一つの学校になる」としたら、どう思いますか？

＜質問 6＞学校の子どもの数が減っていく対策として、「近くのいくつかの学校がまとまって、一つの学校になる」としたら、どう思いますか？

(小・中学校、義務教学校前後期の全体の数値)

(無回答) 0.3%



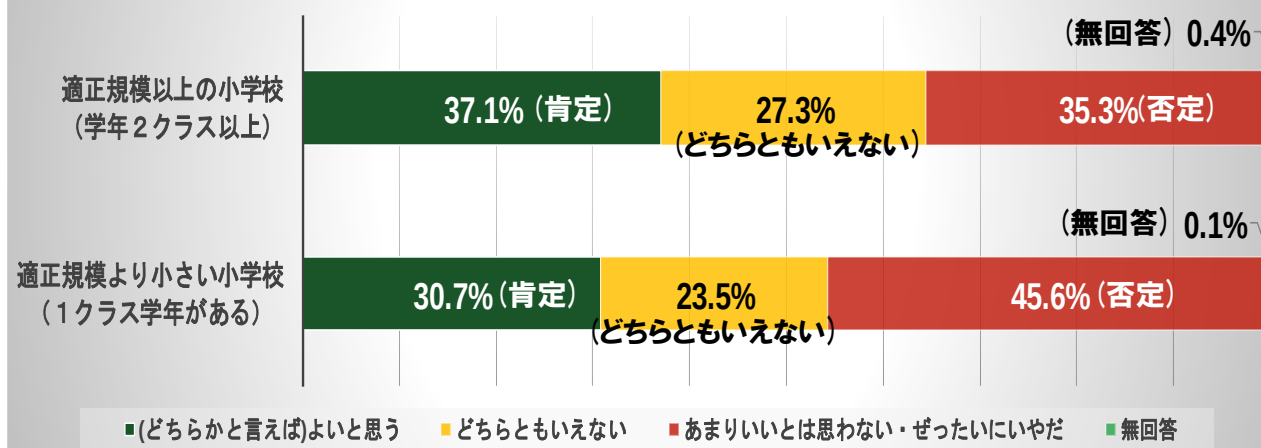
- よいと思う
- どちらかといえばよい
- どちらともいえない
- あまりいいとは思わない
- ぜったいにいやだ
- 無回答

回答数：3421

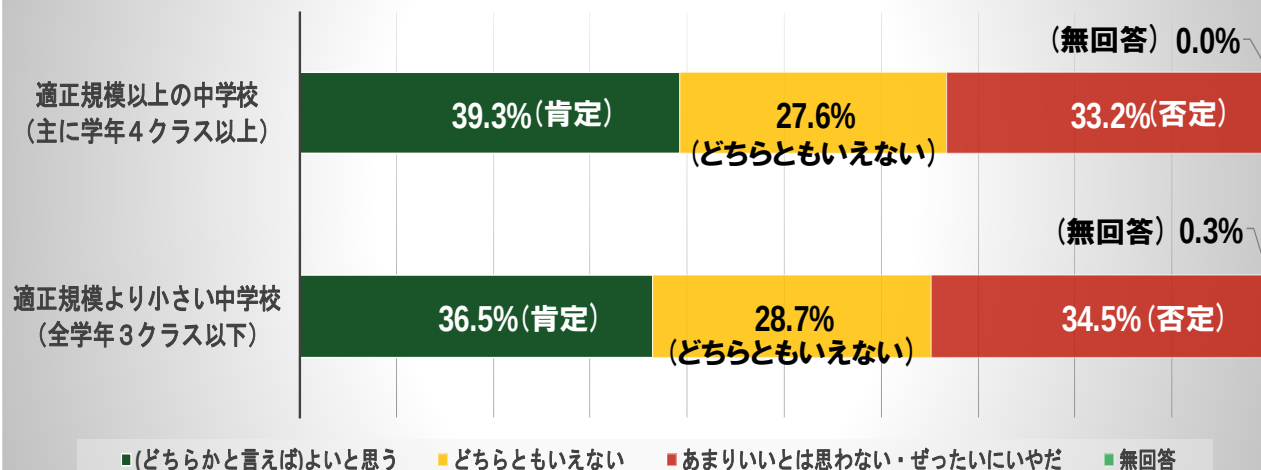
肯定率：	37.8%
否定率：	34.4%
未定率：	27.4%
無回答率：	0.3%

- 「よい」「どちらかといえばよい」という肯定的な意見が 37.8%、「あまりいいとは思わない」「ぜったいにいやだ」という否定的意見が 34.4%と、肯定的意見がわずかに上回っています。
- これを現在、適正規模以上の学校と適正規模より小さい学校に分けて、回答の割合を横棒グラフにしたものが、次のグラフです。

＜質問6＞学校の子どもの数が減っていく対策として、「近くのいくつかの学校がまとまって、一つの学校になる」としたら、どう思いますか？（小学校）



＜質問6＞学校の子どもの数が減っていく対策として、「近くのいくつかの学校がまとまって、一つの学校になる」としたら、どう思いますか？（中学校）

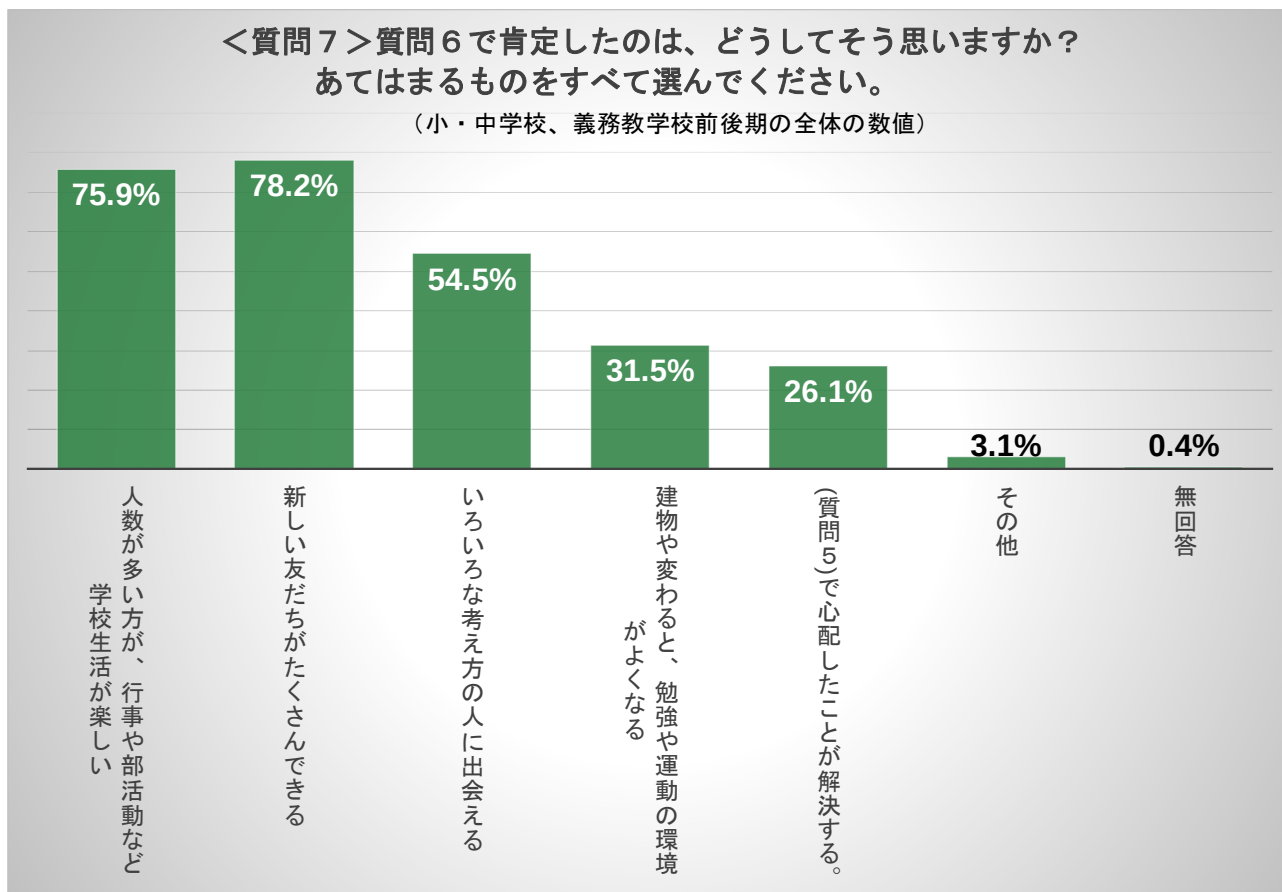


○適正規模よりも小さい小学校で、否定的な意見が極端に多い小学校があり、否定的な意見の割合が上がっていますが、それ以外の小学校では、学校による多少の違いは見られましたが、顕著な傾向の違いは見られませんでした。

○小学校では否定的な意見が上回りましたが、中学校では肯定的な意見が上回りました。これは多くの中学校で、いくつかの小学区校が一緒になり、小さな集団から大きな集団を再構成することを経験していることで、大きな集団に対する抵抗感が小さいことが要因であると考えます。

○「どちらともいえない」の割合も多く、子どもたちにとっては、学校の統合については、さまざまな条件や状況を考えたうえで、否定も肯定も判断が難しかったのではないかと思います。今後、子どもたちの不安な要素を解決していく工夫が必要であると考えます。

質問 7 質問 6 で肯定したのは、どうしてそう思いますか？

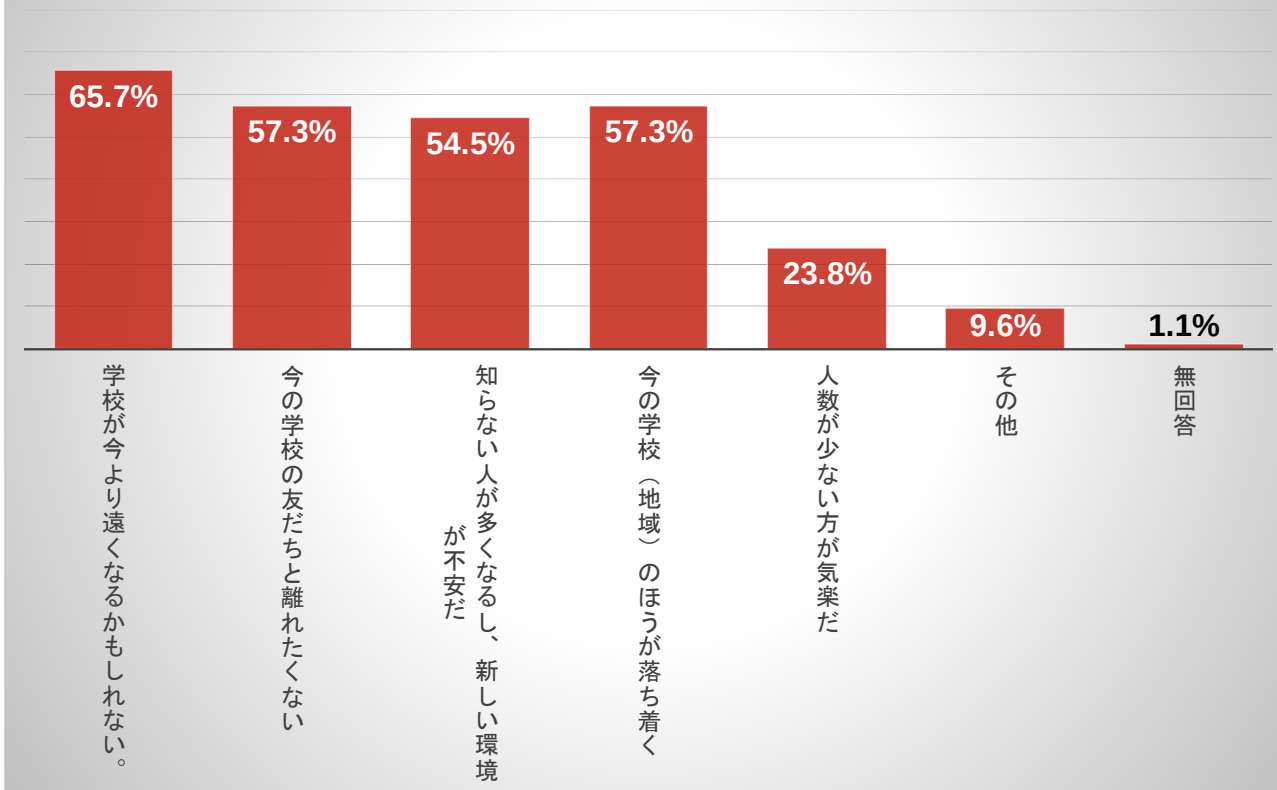


- 「新しい友だちがたくさんできる」「行事や部活動など学校生活が楽しい」が多く、次が「いろいろな考え方の人と出会える」でした。人間関係の拡がりに期待する意見だと思います。
- 「建物が変わると、学習や運動の環境がよくなる」という回答も一定数ありました。適正化によって、教育環境が改善されることに対する期待のあらわれだと思われます。

質問 8 質問 6 で否定したのは、どうしてそう思いますか？

＜質問 8＞質問 6 で否定したのは、どうしてそう思いますか？
あてはまるものをすべて選んでください。

(小・中学校、義務教学校前後期の全体の数値)



- 「学校が今より遠くなるかもしれない」が最も多く、学校の統合により校区が広くなり、通学距離が長くなることを心配していることがわかります。
- 「今の学校の友だちと別れたくない」「知らない人が多くなるし、新しい環境が不安だ」「今の学校のほうが落ち着く」などは、大きな集団になることへの不安であると思います。これが学校小規模化の課題であると考えます。

※否定的意見の中で、「その他」の項目で 9.6%という多くの児童生徒が意見を書いてくれていますので、選択肢と異なる意見の代表的なものを、次に紹介します。

<質問8>「その他」の代表的な意見のまとめ（抜粋）

- 行事が少し変わるかもしれない
- 多いのは苦手だけど少なすぎるとリモートでもよくなる。何人かかぜをひいたらすぐ学級閉鎖になる。
- 遊具や砂場おにごっこの場所が多すぎて使えないかもしれないし多すぎるとぶつかったり、怪我をしやすくなるから。
- アレルギーのこと、クロスドレッサー、相対的貧困に関して理解してもらえるかすごく心配。いじめられる対象になりたくない。
- 他の学校と一緒にしても、逆に多すぎたりするから。
- 部活動や制服、その他の物品を揃え直すのが大変
- 新たなコミュニティが形成されることにより、治安が悪くなる恐れがある
- 人が多かったらうるさくなりすぎて環境がより悪くなるかもしれないから
- 発達に遅れのある子たちへの配慮がしにくくなりそう
- 人と深く関わるものがなくなって浅い関係になってしまう
- 先生が一人ひとりに教えてくれる。少ない方がみんなと親しみやすく意見の出し合いがしやすい。平和に暮らせる。揉め事が少なくなる。
- 思い出の学校の見た目を思い出せない（校舎がなくなると記憶が薄れる）
- 学校も減ってしまうと、子どもたちも減ってしまう可能性があるから。
- 部活で戦うチームが少なくなる（統合により対戦相手がいなくなる）
- その学校の良さとかがなくなるし交流とかが楽しくなくなる
- さいがいでばしょがなくなるから（避難所としての機能喪失）

学校が大きくなることで関係性が希薄になることへの不安やマイノリティへの配慮を心配する声、大人数になることで騒音を気にするなど、さまざまな視点での不安が記載されています。そういったことも踏まえて、適正化についての配慮をしていくことが大切であると考えています。

質問9 資料を見て、何か意見があれば聞かせてください。(抜粋)

◇記述回答数：1563 件

1. 新しい出会いや人間関係の拡がりへの期待に関すること

少人数による人間関係の固定化を解消し、より多くの仲間と出会えることを楽しみにする意見です。

- 学校が合体したほうが友だちも増えるし、環境も変わるからいいと思う。
- いろんな学校とくっつけて1つの学校になるのもいいと思いました。
- いろんな学校が一つの学校になったら新しい友だちや新しい思い出がたくさんできると思う。
- 人との関わりがもっと多くなり「こんな個性の人もあるんだなあ」と多様性の時代が感じられる。
- 新しい人と出会えて、良い経験ができる。
- 親友と一緒に学校になれるから。

2. 行事の盛り上がりと部活動の活性化に関すること

人数が増えることで、学校生活に活気が出て、やりたいことができるようになることに期待する声です。

- 中学校をまとめたらいいいと思うし、部活動がもっと増えてほしい。
- 人数が多いほうが、行事や部活動など学校生活が楽しい。
- 人数が少なくなると楽しくなくなるから学校どうし合体させるのもいいと思う。
- 少ない人数の小学校をあわせたほうが楽しめるし、いろんなことに挑戦できると思う。
- 行事が盛り上がり学校生活が楽しくなったりしていいと思う。
- 部員が減って部活が廃部になるのは嫌だ。

3. 多様な意見に触れる学習環境への意欲に関すること

切磋琢磨できる相手が増え、学びが深まることをメリットとして捉える前向きな意見です。

- いろいろな考え方に出会うというのは自分の成長になる。
- クラスの人数が増えれば、交流の機会や行事の幅が広がって良いと思った。
- 新しい考えや友だちが増えないので、学校を合体するのがいいと思う。
- いくつかの小学校が一つになって色々な考えの人と出会いたいと思った。
- テストの点数で競争相手ができるので、より高みをめざせる。
- 子どもが減って新しい考えや意見が聞けなくなって発想があまり浮かばなくなるからやばいと思う。

4. 少子化の現状への危機感と改善の必要性に関すること

現状のデータを見て、学校の統合はやむを得ない、あるいは早急に対策が必要だと考える意見です。

- 小学生の数がこんなにも減っていることにびっくりした。
- 深刻さがグラフで可視化されたことによって、他人事ではないなと強く思った。
- 将来子どもの数が減って行くのが怖いと思った。
- 少子高齢化がとても進んでいるなと改めて感じた。
- 自分たちが通っていたときよりも、圧倒的に子どもの数が減っていることがよくわかった。
- このままでは学校がなくなってしまうから、学校をくっつけるしかないのかもしれない。

5. 通学の負担や安全面への心配に関すること

統合により距離が遠くなることへの不安や、具体的な対策を求める意見です。

- 家から学校まで距離が遠くなると遅刻するから、このままでいい。
- 学校をまとめることはいいと思うが、その分通学が遠くなるのは大変だと思った。
- 校区が広くなると、端のほうでは先生が目が届かないかもしれない。
- 距離が長くなって登校するときに安全か調べたほうがいい。
- 通学路が狭すぎて通わせたくない親もいると思うので、そういうところから動くべき。

6. 環境変化への不安と出身校への思いに関すること

慣れ親しんだ今の環境を大切にしたいという気持ちや、急な変化への戸惑いです。

- 今の学校生活がいいから、何も変えないでほしい。
- 自分の出身校ってものがなくなるからヤダ。
- 急に知らない人たちと同じ中学校になるのは嫌だ。
- 環境の変化に慣れるのに時間がかかるので、できれば現状維持がいい。
- 少人数のほうがみんなと親しみやすく、平和に暮らせる。

※男女共同参画の観点から記載された表現を変更している語句があります。

7. まちの活性化と子育て支援への具体的な提案に関すること

学校を減らすだけでなく、子どもが増えるような魅力的な街づくりを求める声です。

- 羽曳野市のみりよくをあげたらいいと思います。
- 給食費無償化など、子どもを増やす取り組みをしたらいい。
- 子どもが集まるような公園や施設を作ると子どもが増えると思う。

- 学校が遠くなるなら、スクールバスを運行したり自転車通学を許可したりしてほしい。
- 廃校になったところに、ショッピングモールや遊び場などを作って再利用してほしい。
- 子育てをしている親世代に対する支援が必要だと思う。

とても率直な意見を書いてくれました。統合による新たな出会いや関係性が広がることへの期待の声も多くありました。それに対して、校区が広くなり通学路が遠くなることや安全性、環境の変化への不安などの声も聞かれました。また、まちづくりのことにまで思いを寄せてくれている意見もありました。小学生も中学生も、故郷である羽曳野市の「これから」のことを考えてくれていることが、とても頼もしいと感じました。

子どもたちの期待に応えながら、不安をできるだけ解消できるように、さまざまな視点から「魅力あるまちづくり」を踏まえた学校規模適正化・適正配置をすすめてまいりたいと考えています。

以上が、児童生徒アンケートの集計結果と分析です。

羽曳野市教育委員会では、児童生徒数の減少に伴う学校小規模化の現状と課題を踏まえて、義務教育諸学校の今後の在り方を、「まちづくり」の視点をもって、現在在籍している中学生に考えてもらう機会を持っています。

「中学生未来会議」ということで、各中学校、義務教育学校後期課程から、何人かの代表生徒に参加してもらい、羽曳野市のことを3回にわたって意見交換してもらいました。その最終回では、自分たちも回答した児童生徒アンケートの結果を踏まえて、「羽曳野市の学校の『これから』をカタチにしよう」というテーマで、5つのグループから提言してもらいました。最後にそれをご紹介します。

羽曳野市中学生未来会議からの提言

第3回 グループワーク

羽曳野市の学校の 『これから』をカタチにしよう



Habikino Junior High School Future Conference

羽曳野市教育委員会

提言シート（本日のゴール）

【1班】

一班は学校の設備に関することと教室の雰囲気のことが多いが多かったです。学校の設備では、授業をしてもらっている先生方に授業の物資を学校が提供してくれるのと先生の働き方改革の実装をしてほしいです。具体的には、先生の定時を遅らせて、給料がちゃんと出るようにしてほしいです。教室の雰囲気では、クラスの問題を早期解決するのと中々学校に来れないクラスの仲間も安心して来れる学校を作りたいです。他にも生徒数を増やすために学校の魅力を伝えたり、羽曳野市には校区内に住宅街やマンションなどを造って欲しいです。

提言シート（本日のゴール）

【2班】

- 沢山の人と関わる人が多いと楽しくなる。
- 地域の人と交流する機会を増やす。
- みんなが過ごしやすいように学校で話し合う時間をとる
- オンラインで他校と合同授業をする。
- 行事や部活動を複数校で活動する。
- 羽曳野市の特産品をもっと宣伝する

提言シート（本日のゴール）

【3班】

- 学校の良さを知ってもらうために行事を増やす…地域の人も参加できるようにして、学校の良さを知ってもらう。これを実現するために、生徒たちで行事内容を考えて、学校には行事に必要な設備を用意してもらう。もし生徒数が少なくて行事ができないのだったら、他の学校と一緒に行事をする。
- もしどこかの学校が合併して通学がしんどいなら…自転車通学になる範囲を広げたり、バスを使えるようにする。通学手段を増やす以外にも、授業が始まる時間を遅くする。

提言シート（本日のゴール）

【4班】

- 本音を言い合える場を設けることができる学校が通いやすい。
- 何でも言い合える環境を作る。
- いろんな人のことを考える事ができる。
- 皆がやるべきこと…話を聞き協力して物事に取り組む
- 学校がやるべきこと…他の学年との交流の場を設ける。
- 市がやるべきこと…PR動画を制作していろんな意見を集める。

提言シート（本日のゴール）

【5班】

- 広報活動でいろんな学校の注目を集める、バズらせる。
- どこか飛び抜けたところを作ってみる。（クラブ、環境など）
- 学校行事を活発にする。
- まとめて、学校と市にもっと魅力を持たせて、広報に広めることで羽曳野も学校も潤うかもしれない。なので、今の世界の中心のSNSで広げるのもいいし、できることをするべき。

市内の21名の中学生が、自分たちの学校の現状と課題について意見交流し、学校の枠を超えて、自分たちの力で、中学生や学校や市に対して提言した内容です。

羽曳野市教育委員会でも、将来、羽曳野市を担う中学生からの今後の学校の「カタチ」を考える大きな提言として受け止めたいと考えています。中学生の前向きな気持ちも不安に思う気持ちも、ともに受け止めながら、子どもたちが社会に出たときに、さまざまな人と関わりながら、自分らしく生きていくために必要な力を育成できる教育環境を確保し、市域全体の「誰もが住みたい持続可能なまちづくり」という長期的な視点で、学校規模適正化・適正配置を進めてまいりたいと考えております。

今後も、市民の方に説明させていただく機会やご意見をお伺いする機会を設けていきたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力いただきますようお願いいたします。

最後に…

アンケートに回答してくれた令和7年度の小学校・義務教育学校前期課程5・6年生と中学校と義務教育学校後期課程の3,421名のみなさん、中学生未来会議に参加してくれた21名の中学生のみなさん、本当にありがとうございました。羽曳野市や学校の将来のことを、さまざまな視点から考えてくれた意見や提言は、これからの羽曳野市の学校を適正な規模していくための大切な意見として参考にさせていただきます。

ありがとうございました。

令和8年8月1日
羽曳野市教育委員会